

■ 原色版『春』及び『御嶽の奥』は共に原畫の重味を失ひ候。前者は縦五寸、横一尺。

後者はワットマン拾六切大にて候『上高地』は四拾年七月の作にてワットマン、九ツ切。『洗濯』はワットマン、八ツ切大に御座候、寫眞版『よもつ比良坂』は習作の一にして九ツ切大に候。

■ 本號の表紙は相田寅彦氏の考案になれるものにて候。

■ 次號原色版には南薫造氏筆、『赤い頭巾冠れる供子』故大下藤次郎氏筆、『背景の下繪』吉田ふじを氏筆、『朝日の窓』石井柏亭氏筆、『ワンサンヌの池』を挿入する筈に候、『背景の下繪』は菊版八ツ切大にして本號に挿入の筈なりしも都合上八月號に廻す事に致し候、『朝日の窓』、『ワンサンヌの池』は共に太平洋畫會展覽會の出品畫にて、寫眞版には、日本水彩畫會研究所月次會出品畫其他挿入の筈に御座候。

■ 記事には石川氏の『英國水彩畫家評判記』鴉澤氏の『故大下畫伯在米中の書簡』

山崎氏の『劇の背景』磯氏の『玩具より受くる國々の色彩』及び丸山、齋藤、戸張、織田諸氏の御寄稿有之るべく候。

■ 前月に誌代御拂込み有之しかも十日迄に雜誌未着の節は早速申出でられ度再調の上御送り仕るべく候。

■ 繪畫に關係なき寄稿はすべて没書と致すべく候まゝ御含み置き被下度候。

■ 直接本會より誹讀致さるゝ諸氏にして特約店文房堂商品目錄及び割引券御望みの方は郵券を添へ御申込み有らば御送付致すべく候。

■ 日本水彩畫會研究所五月例會は、去る二十六日開催され、岡、永地、眞野氏外出席者四十人、出品點數百十一有之候。

■ 二十二頁所載の寫眞は四月二十、二十一の兩日臺灣艦艇にて開催せられたる洋畫研究會展覽會に於ける紀念の撮影にかゝり前列向つて左より三番目なるが石川欽一郎氏にて他の諸氏はいつれも本會の會友にて候

問に答ふ

■ 小生儀夏期休業中上京し素描又は水彩畫を修業したし、何處にてか御指導せらるゝ所無之や(廣島戸谷一雄)◎多くの研究所は、夏期は休暇なれど、溜池洋畫研究所(もと白馬會)にては、夏期も授業致す由なり但し、水彩畫は教授するや否や不明、又畫家の多くは夏期旅行中なれば一個人の指導に當らるゝや否や不明、■ 一、調子の弱き繪とは如何なる繪なるか、又その繪は善き繪なるや又悪しき繪なるか、二、次の語の意義ボデーカラー、ローカルカラー、コンポジション、アンパンドン(AWA成節生)◎一、調子の善く、調ふて居るものを調子が強いと云ひ、其れに反したるものを弱き調子と云ふ、故に、暗き畫にても完全に調子か調ふて居らざれば弱き畫と云ひ、明るい畫にても調子がよく、調ふて居れば調子は強いと云ふ事が出来る、二、ボデーカラーはホワイトの入つた、不透明な繪具の事、ローカルカラーは、地方色、即ちあ